

コミュニティ放送 FMラヂオバリバリ の取り組み

コミュニティ放送の概要

1992年に制度化された超短波放送（FM）最大出力20Wのコミュニティ放送局は、2011年現在、全国に246局あります。FMを使用する一般放送事業者は「地域放送」「コミュニティ放送」に区分されコミュニティ放送は市町村に限定されるため地域の商業、行政情報、その他地元情報を中心に放送されています。

また、災害、緊急時には地元のきめ細かな情報を流すことを使命としています。

ラジオ局開局までの経緯

既に14年も経ちましたが、常々地域情報の少ないことに疑問を持っていた仲間の中で、松山市の愛媛県初のコミュニティ放送局が設立される計画が頓挫したという記事が愛媛新聞で連載されていたことが話題になっていました。丁度経済も低迷傾向の中で地方の閉塞感を徐々に感じていた時でした。今治は塩業から始まり造船、海運、タオ



ル産業といずれも日本一の町でパイオニア精神旺盛な市民性ですが、残念ながら今治に暮らしていても自分の町を知らない市民も多く、知らないことには問題意識も生まれない、電波を道具として暮らしの中で地元情報が行き交うよう、きめ細やかな情報をラジオで発信できれば町おこしの起爆剤になるのではないかと漠然と考えるようになりました。その後、何日もラジオのことが頭から離れず、自然にコミュニティ放送を

調べる作業に移っていきました。松山にある総合通信局へは何度も通い沢山のことを教えて頂きました。同時に知識もなく、何の後ろ盾もなかったので賛同者を呼びかけ実行委員会



今治コミュニティ放送
代表取締役

黒田 周子

災害時のコミュニティ放送の役割

普段から小回りの利くコミュニ



を設立。さらに大きな協力を求め当時の市長のもとへ。人と人を繋ぐ市民参加型ラジオの必要性を熱心に説きました。そして市長から1999年来島海峡大橋の開通記念イベントにおいて、試験的に期間限定の放送局の設置のチャンス頂きました。その後、本格的に動き出し2002年念願の今治コミュニティ放送が開局しました。「みんなで作るラジオ局」を旗印に局とリスナーが双方向で情報を交わし、地元情報の提供、市民参加型放送、災害時の情報発信を3本柱とし、年間番組制作ポランティア数360人、24時間、365日放送しております。

ニティ放送ですが、災害時においては本領を発揮します。東日本大震災の被災地でも現地のコミュニティ放送局が不眠不休で生活情報、安否情報、ライフラインの復旧状況など発信しております。近年では防災無線の代わりに活用する自治体も多くなっています。今治コミュニティ放送局（FMラヂオバリバリ）においても通常の番組の中、そして今治市防災危機管理課の協力のもと日常の危機管理の啓発、避難場所の案内をしています。防災に関して一番重要なことは日頃からの人の繋がりの構築だと思えます。またハードでは災害時に回線が断絶する可能性もあり、2011年にはスタジオと送信所を無線でつなぐシステムを設置しました。

「風景づくり夏の学校」活動1

2006年から東京大学大学院准教授羽藤英二先生の指導のもと毎年ラジオをベ이스に地域の魅力を発信しています。しまなみ海道沿線地域には、世界でも有数の自然環境、歴史、文化遺産（遺産）が多数存在しています。これらの自然、産業遺産を認識し保全していく上では多くの市民の理解と協力が必要となります。学識者、地域の歴史家から講義を受け、地域に住む人たちの話を聞いて今までなかった視点で地域を見てきました。自分が住む町を知り、そこからいろいろな気づきが生まれます。景観、自然、地域資源をいかし地域の魅力向上、地域の活性化、更なる利用促進を図って

くために、継続して今治の魅力を発信していきたいと思っております。

「ラヂバリビーチクリーン」活動2

今治市は島嶼部と海峡をその市の内部に抱える、海の町です。愛媛県は日本の都道府県のうち、海岸線延長が5番目に長いのですが、その大半は岩礁で砂浜としての距離はそれほど長くありません。県内で規模の大きな砂浜海岸は今治に多く残っていますが、そのこともあまり知られていません。ラヂバリで取り組んでいるビーチクリーンは「ごみを拾ってきれいにする」という一過性のものではなく、このような地元の海の自然を実際に見て、楽しみながら知って気づいて好きになる、そしてアクションを起こすという循環づくりを未来につなげて

いきたいと思います。
アクション
1、発信性、
エンターテインメント性
のある市民
ラジオと知識提供・専門機関と連携し参加した市民パ
ソナリティ
やリスナー
がそれぞれ



の思いや感じたことを各番組で再発信。アクション2、漂着物観察 拾った漂着物のデータ収集・J E A N など全国組織や地元のア媛県総合科学博物館、NPO ア媛県生態系保全管理のスタッフなども連携して行っています。アクション3、写真や番組とリンクした音声なども交えたネット発信。その他、ラジオ主体のイベントとリンクし、サイエンスカフェのような展示発表会を開催しています。

最後に、ラジオを始めた当初には気づかなかったことがたくさんあります。市民ラジオは単に情報を伝えるだけではなく、地域を知り人と人を繋ぐ役割が大きいこと、そして得たものを地域に活かしていく。ラヂバリの発信から何かを感じる発端となれば幸いです。